新を衒ふに急なるの風あるを陋とし、英國のそれ等の學者的良心の篤實なるを高しとしき、先生曾てティラーが『行爲哲學』を著はして、盛に理想主義の倫理學を罵倒し、後數年ならずして、其說を變じたるを見て、彼は恰も獨逸學者のなすらしきが如く爲せりと難じき、又曾て一人あり、先生と島田篁村先生と並べ評して、彼等は博覽甚だ努むといへども、既に自家の見を有せず、一は東洋の腐儒にして、他は西洋のそれと謂ふべきのみと漫罵せり。先生之を聽き一日余に語て曰く百年にして猶崩壞せざる建築は、堅牢にして廣大なる基礎を要す。余を腐儒といふもの、未だ名匠の地盤の築造に拂ふ細心の注意と苦心とを解せざるの徒のみと、敢て之を意に介せらるべきや。又曾て先生の學者的用意と熱度とを觀ふに足らんか。

先生の性行。質を細密にすること、其學術と併せて他日其機會あるべし。只、此に余は余等聊か先生を知るものより之を觀れば、確かに誣妄と認むべき漫評を加へたるものありしを、先生の爲に遺憾に堪へざる旨を言明せざるを得ず。（大正七・一・六稿了）

新著紹介

岡本春彥遺稿

矢野禾積編

岡本君が死なれてから早や一年になつた。君の遺稿が矢野氏の努力によつて恰も君の一周忌に出版せらるゝことゝなつたのは故人の喜びは言ふまでもなく、我々にとつても君の再生を見る如き喜びがある。殊に「哲人ブルノー」によつて遍く奇才を認められた君は今此の遺稿を我々に贈ることによつて忘れ得ぬ面影を我々の心の上に濃くすることになつたのである。人の世に人程貴きものはないが人の世に亡き人の面影ほど美しきものはない。遺稿はなき人の面影を衒す「魂の塔」である。

ヘッベルの詞に「一にして一切なる神は己自身にも秘密であつた。故に神は己を見んが爲に創造せざるを得なかつた」といふのがある。故人は此の詞を愛誦したのみでなく其精神を身に體して

表現せんとした。君の生涯は君にとつて不可解なる謎であつた――何人か己の生の然らざることを斷言し得よう。生は暗き運命の姿をとるまでに力强くさうして不可解なるものであつた。君は背後から覆面せる運命に威壓せられながら其姿を眺めんとした。さうして之を眺めんとする努力が即ち君の生に外ならなかつたのである。運命を逃避する所に生があるのではない。生を滅却する所に藝術が生れるのではない。神は己を見んが爲に人を創造し人は己を見んが爲に藝術を創作するのである。藝術の創作は君にとつて己自身を見んとする努力であつた。併し己を見んとする君の努力は己を見られざらんとする君の生に比してあまりに無力であつた。君は其爲にさうして其故にのみ苦んだ。しかもこの苦みを外にして君の生命はあり得なかつたのである。君の詩作も君の戀愛も君の哲學も、即ち君の創作は盡く己を見んとする苦しき努力であつた。私は敢て君の熱烈なる戀愛をも君の創作だといふ。加之君の冷靜なる學的研究をも君の創作に加へたいと思ふ。ブルノーの研究は君も明言するやうに其のある所では單にブルノーを寫すためではなく反對にブルノーを鏡として君自身を寫さんとしたものであつた。「シエルリングの象徴思想」も所謂忠實にシエルリングの哲學を分析し批評したものといふよりは寧ろシエルリングによつて君自身の生を語らんとしたものであつた。或はシエルリングを通じて君自らの生を見んとする努力であつた。君は其爲めにシエルリングの思想を叙述しながら又は之を批評しながらそれはシエルリング其人の忠實なる紹介といふよりも寧ろ君自身の解釋であることを繰返し繰返しした。殊に此論文の骨子ともいふべき象徴思想を論ずる項にはいつしかシエルリングは後に退いて近代文藝に養はれた君の象徴思想のみが獨り前景を占むることゝなつてゐる。藝術も哲學も己の生を見んとする苦しき努力に外ならなかつた君にとつては冷靜なる論理的分析の如きは固より君の堪へ得ぬ所であつたのであらう。シエルリングの研究方法であつた知的直觀は同時に又君の哲學研究の方法であつた。君の哲學研究の方法は又君の生を見るべき唯一の手段であつたのである。君は此知的直觀によつてシエルリングの融一世界を見、同時にそこに己の生を眺めんとした。融一世界とは睿智と自然との一である一にして一切なる神の世界である。神の世界はフイヒテの所謂當爲の世界ではない、當爲と氣隨との融一せる世界である。自然と道德との融合せる世界である。學的自我と行的自我との未だ分たれざる而して既に分たれたる兩者のあくまでも憧憬すべき神の世界である。故に融一世界は其自ら發展的にして向融一的展相に於て自らを開示すべき實在の世界でなければならぬ。自然も道德も國家も歴史も盡くこの融一者の展相に外ならない。併し此の如き融一者の眞

の客觀化はひとり藝術に於てのみ可能であつた。象徴とは實に此融一者の完全なる表現を意味するのである。藝術は神の完全なる客觀化である。象徴の意義は神秘なる生の神秘なるがまゝに眺められた生の意義である。シエルリングの哲學は融一者が己を語らんとする種々なる展相の描寫であつた。君の哲學はシエルリングによつて自己を見んとする君の苦悶に外ならない。併し君の生は此力を無視するまでに暗く且神秘なるものであつた。君は遂に

あゝいつの日かこの罪の姿は見えん。
神のみ知れるこの罪の
せんすべもなきはかなさや

と歌ふに至つた。生は餘りに暗黑にして殘酷である。それは君にとつては一の罪業であり一の宿命であつた。之を見んとする君は時に力弱き努力の故にたゞ辭をのみて泣くより外に仕方がなかつた。

あゝあゝおそろしき秘密のまへ、
うたむとする秘密のまへ、
ふるへながらこゑをのみて、
ただひとり泣きをるのみ……

君の生は君自らにとつても遂に秘密であつた。僅に遺稿によつて君の生涯を見んとする我々にとつてはそれは更に更に大なる秘密でなければならぬ。「哲人ブルノー」と此遺稿は君の嗜き生涯をかたどる二の象徴である。

此遺稿には「シエルリングの象徴思想」といふ論文の外に「詩歌の眞髓」「神秘主義の爲に」といふ二の詩論と「近代神秘思想」「近代的戀愛」といふ二飜譯とそれから若干の詩歌とが收められてゐる。「ブルノー」も「遺稿」も共に故人の親友矢野氏の校訂によつて世に出ることができた。矢野氏の獻身的な好意に對しては我々は實に感謝の辭を知らない。此の如き多くの親友を持ち得た岡本君は其點に於てのみ幸福な人であつたと言はねばならぬであらう。(山内得立)

因に此書は非賣品であるが今回二百部に限り增刷して希望者に實費を以て直接に配布する由

一申込所　東京神田區表神保町館修文内星野敬一宛
　　京都文科大學哲　宛

一申込期日　三月末日
一豫約金　壹部弐圓　送料拾弐錢
一配布期日　四月中旬

寄贈書籍雜誌

岡本春彦遺稿　文學士矢野禾積編　編者